

SSKU

お元気ですか?
イリアンソス
です。

2009



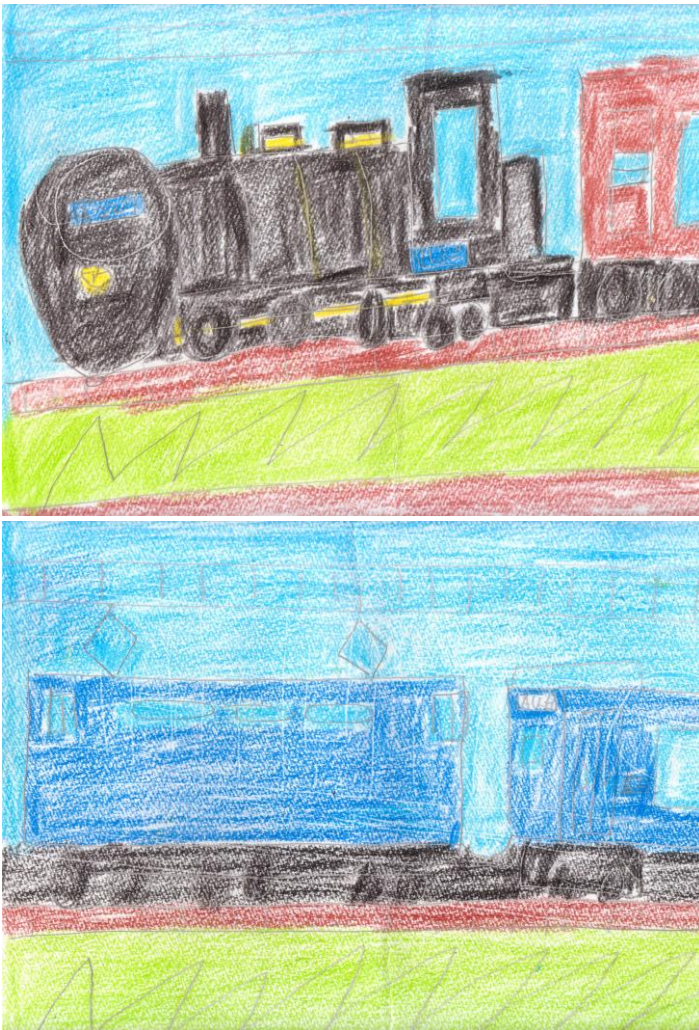
理事長の散歩道 特集

「私たち、輝いています」

なかまの家・のぞみの家、活動センターかなえの
紹介

連載 この街の自立支援法④

「～事業所の移行について～」



※ 活動センターかなえ なのはなグループ
横山 理 作

社会福祉法人イリアンソス

● のぞみの家

東久留米市下里 2-7-18

042-473-9027

042-473-9036 (F)

iriansos@qq8.so-net.ne.jp

● 活動センターかなえ

東久留米市南沢 2-20-51

042-451-0252

042-451-0262 (F)

kanae@yg8.so-net.ne.jp

● なかまの家

東久留米市中央町 2-1-47

042-472-7130

042-444-3722 (F)

na0317@zc4.so-net.ne.jp

● 生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里 4-2-7

042-476-3400 (F 兼)

umi-sora@dj9.so-net.ne.jp

理事長の散歩道



春霞の中、 桜のカーテンに包まれて

社会福祉法人イリアンソス
理事長 山田耕一郎

桜の開花

春の兆しが見えてくると、気になるのはさくらの開花時期です。今年も、例年より早めという予報です。

私は、仕事人間で「あいつは、ばたばたしていて、美という間合いがわかる素質がない。」と言われたことがあって、あまりにも的を得ているので「なるほどそうか」と感心する程でした。自分でも、これは「独楽(こま)の人生」であって、止まれば倒れるのだろうと思ったことがあります。そんな具合ですから、日本に樹齢千年を越す桜があると知ったのもつい5、6年前のことでした。

日本三大桜というのがあって、ひとつは「三春滝桜」(福島県三春町滝桜久保)で、樹齢千年の巨木です。東西25メートル、南北17メートルという大きさです。もうひとつは「根尾谷の淡墨桜」(岐阜県本巣市根尾板所上段995) 樹齢千五百年、樹高16メートル、幹回りは10メートルにおよびます。

今ひとつは「山高神代桜」(山梨県北杜市武川町山高) 樹齢一千年、樹高9メートル、根周り13メートル余りで、国の天然記念物に指定されています。

今頃になって、是非、花の咲いた姿をひとつずつ訪ねてみたいと願っています。障害を抱く

日本の学校はソメイヨシノ等の桜が咲いて、その年度を区切り、八重桜が咲いて入学が祝われます。この頃になると、作家の水上勉氏が書かれた「生きる日々―障害の子と父の断章」(ぶどう社)のことを思い出しますので紹介しましょう。

次女の直子さんは脊髄損傷によって、両足先が障害を受け四歳で母親の骨を移植し、五歳になって、別府の国立病院から小さな松葉杖を手にして、戻ってきました。

別府へ出かける二歳の時は肩を丸めて、首が落ち悲しい障害を背中に背負ったような哀れな姿でした。それが二年後の今は、背中が伸び、腹が出て、しっかりと腰が座って安定感が感じられるようになっていました。死んだ足を助けるために、腹と腰が立派に成長していました。その変化を妻に話すと「あの子は、もう障害を背負ってなんかいませんよ。抱いて歩いていますよ。」といった。「そうか、障

害は背負うものではなく、抱くものか...」

「抱くことは生きることだな...」

「障害は腹に抱け」(子は私につぶやく)

「背負っていちゃ...いつまでも病人だ...」(子は私に語りかける)

「花は桜木、人は武士」という言葉は優れた者のたとえを示していますが、ともに潔さからそう言われるのだという説があります。障害を抱く勇気も潔さから生まれてくるものでしょう。

フランスの科学者、エドワードセガン(障害児教育の父と慕われる)が1866年(明治維新は1868年)にまとめた彼の著書「障害児の治療と教育」の中で次のように述べられています。

●新しいことを教える場合は、目標を先の方においてはならない。逆にすでに十分よく知っていることの後ろに目標を置くべきである。(できないことに目を奪われず出来てきたものと出来たもの大切に組み合わせ、さらに出来るものを増やしていく方法)

寒風に耐えられた桜の枝から一斉に花芽を吹き出し、春風に揺れるカーテンのように身を包んでくれる桜木の中で、生きていく喜びに感謝しながら...

なかま

私たちが輝いています!

— 真剣・夢中・笑顔 —

(なかまの家の活動)

なかまの家の活動は主に創作で、木工や、陶芸、さき織り、調理実習です。また、市内広報紙の配達、授産製品の仕入れ、販売、古紙やダンボール、アルミ缶、牛乳パックのリサイクル回収も大切な仕事です。またプール、ウオーキングなどを行っています。

なかまの創作活動を紹介していきます。木工作業は主に板を切る、焼く(強度の目的や見た目など)、かなづちで釘をたたき、組み立てる工程があります。一斉に思い思いに切る、たたくことをするため、のこぎりのギコ、ギョコと切る音、釘をトントンとたたく音が部屋中にいきわたり、会話さえも聞こえなくなるぐらいの騒ぎになります。

こんな中で普段大人しく、隅の方で自分の居場所を探し、じくつとして大きな音や苦手な音を嫌うAさんにとってこの状況は窮屈になります。時には耳をふさいで、端の方へ行ってしまふことがあります。

Bさんは、優しい心の持ち主ですが、ちょっとした音や声にも敏感に感じることもあり、やはりこれらの音はストレスになるようです。

しかし、このような状況の中ではスタッフの声掛けや、自分のタイミングを見つけることができず、切ったり、焼いたり、たたいたりすることで手に伝わる振動や感触を味わいながら少しの間ですが集中し、一生懸命打ち込みます。そして、ひとつの作品となります。



さあ、切るぞ〜

作ること、特に食べることが大好きな調理実習です。

自治会活動や普段の会話などから作ってみたい料理や食べたい物を、できるだけ多くの利用者の要求に応じられるよう大切に組みんでいます。また、前日に、買い物は班として4〜5名の利用者として出掛けます。食材を自分で選ぶ場面でのやり取りや、レジの精算時の店員とのやり取りを通して、買い物の流れや関わりを楽しみます。

調理段階では、食材を自分で選んで包丁で切る人や手でちぎる人、握りやすいコップを使ってこんにやくを細かくしている人がいます。食材をみて今日は炒めたい、盛り付けがいい、もっと切りたいと言う声や、鍋の前で持つ仕事やトレーを持った動作で「やりたい」「興味がある」という気持ちを大切に、多くの場面でチャレンジできる工夫を、利用者同士の関わりも大事に支援しています。

Dさんは見よう見まねで作ったり手伝ったりはしますが、進んで動くことはなかなかしません。ところが、調理実習になると人が変わったように台所に進んで入り、今か今かと自分の番を待ち、いざ自分の番になると、一生懸命打ち込みます。包丁さばきや切ったものをきれいに並べる様子は芸術の域に達し、コックさん顔負けです。



食べなくなっちゃう！

Eさんは、一通り皆が終わると台所に入
て、配膳や盛り付けなどを率先して行い
ます。普段は人が大好きなのに、付き合
いがうまいかな。Eさんですが、調理を
通して自分の好きなことをやって、共
に心を通い微笑ましい場面を見ることが
できます。



よいしょっ、よいしょっ

陶芸のテーマは決まっていますが、自分
たちの想像の世界の作品になります。粘
土のさまざまな感触を目、耳、手を使
い楽しんでます。陶芸を行なうと、人
それぞれの想像力もつくようにして、
出来た想像力の塊は素焼き、本焼きの
順に焼いて行き完成となります。焼い
てみるとまた違う雰囲気になりみんな
顔もほころびます。

Fさんは普段は歌が大好きで、好きな曲が
流れるとつい踊って、みんなを巻き込
み楽しむ性格ですが、とてもシャイな
人です。創作の時間になると、気持ち
が乗る時は、打ち込む姿勢は圧巻です。
Gさんはなかなか力の加減が難しく、
人と触れ合うときも強く握ったり、ト
ントンと呼ぶときもつい力が入ってしま
います。大きな瞳で無邪気に笑う笑顔
は、見ている人もつい



コロコロ、ペタペタ・・・

つられ顔がほころんでしまいます。陶
芸では、トントン、ペタペタと微妙な
タッチで、休憩も挟まずに夢中にな
って、気づいたら大きな作品も作
ったこともあります。作品展などで
展示させてもらった際にたくさん
の方に作品に触れてもらいました。
ただ作るのではなく、たくさんの方
に見て触れてもらう事もとても大
事な事だと思います。これからも
みんなは素晴らしい作品を作り上
げて行きます。

(今年度から、班を二つに分け活動内容の見直しや整理を行っています。)

さき織りの創作は一本一本通す地道な作業です。
さき織りの台は縦に数十本の糸を張り、そこに長細く切った布を一本ずつ通し、互い違いになるように手作業で編んでいきます。生地の本一本の組み合わせで色彩豊かで一枚の絵のように素敵な作品が出来上がります。出来上がった作品は足拭きマットなどや用途はさまざまですが、丈夫だと好評をいただいています。



ムニユーツ



みんなでポーズ！！



一本、一本間違えないように！

のぞみ



『いろいろありますのでじっくり見ていってください〜い』

のぞみの家はたんぼ班おひさま班チャレンジ班の3班で活動しています。
チャレンジ班では月2回のペースで西部地域センターで「リサイクル久留店」を開催しています。リサイクル品を回収し、値付け、販売、片付け、売り上げ計算までを役割分担して行っています。
衣類、靴、鞆、雑貨、食器のリサイクル品の他に、「自主製品コーナー」(手作りビーズ製品、おひさま班ポストカード、たんぼ班和紙製品など)「豆腐コーナー」(おからかりんとうもあります)「喫茶コーナー」(手作りケーキ、コーヒー「1杯100円」もあります)。

かなえ



『みんなで企画から考えたクリスマス会。歌やプレゼント交換、美味しい料理が一杯です』



『綺麗な和紙、たくさん作るぞぉー』



『付録の封入作業・大好きいー』



『私のお気に入りの場所』

活動センターかなえは2002年に開所しました。現在『なのはな班』12名・『だるま班』6名、職員5名、パートさん8名の温かくもにぎやかな元気一杯の施設です。利用者が主役となり活動・作業に取り組める環境を大切に、利用者一人ひとりの思い、願いを実現することを大切にしています



『いらっしやいませ〜』

最近ではお客さんも増え、笑顔であいさつを交わしたり、値引き交渉のやりとりはもちろんです。常連さんとの会話が弾むこともしばしばです。
リサイクル久留店を通じて地域の方とふれ合い、暮らしやすい笑顔いっぱいの日々が続きますように。。。
ますます活気溢れるリサイクル久留店目指して頑張りますので（暑い夏、寒い冬、花粉症もなんのその!）みなさん是非お越し下さい!!
おいしいケーキと淹れたてコーヒー、笑顔いっぱいでお待ちしています!!

法人行事



リサイクル久留店

日時…5月12日(火)21日(木)28日(木)

6月9日(火)25日(木)

10時～14時(悪天候中止)

場所…西部地域センター前広場
ぜひご来店下さい。

訃報

4月23日(木)にのぞみの家の利用者である三好順子さんが逝去いたしました。

三好さんは、のぞみの家でもケーキ販売が好きで本当によく働き、生活寮うみでもみんなのお茶を入れたりと自分らしく生活しておりました。まだ30歳という若さでした。

ご冥福をお祈りいたします。



連載

この街の自立支援法④

障害福祉計画

今年には障害者自立支援法(以下「自立支援法」)が施行されて3年目になり、障害福祉計画も平成21年から平成23年までの第2期の計画を策定しました。

障害福祉計画の基本的な考え方としては、①全国どこでも必要な訪問系のサービスを確保すること、②希望する障害者に日中活動サービスを確保すること、③グループホーム等の充実を図り、施設入所・入院から地域生活への移行を推進すること、④福祉施設から一般就労への移行などを推進することが挙げられています。そして、数値目標を定める際の具体的な指標として、①施設入所者の一割以上が地域生活へ移行することをめざし、これにあわせて施設入所者数を7%以上削減する、②受け入れ条件が整えば退院可能な精神障害者7万人の解消を目指し、5万人を地域移行させる、③福祉施設から一般就労に移行するものを現在の4倍以上にすることを目指し、これと併せて就労継続支援利用者のうち3割は雇用型を目指す、などが示されています。

厚生労働省の指標を踏まえて、東久留米でも障害福祉計画の第2期の策定の意見交換の場が設けられました。意見交換の場として、東久留米市障害福祉施設代表者会(以下「代表者会」)が開かれました。しかし、代表者会は事業所の集まりなので、障害福祉計画の意見交換の場と

しては、このサービスを利用する利用者の声を聞く場を作る必要があると感じました。市側は、アンケートや個別に話を聞くことで対応できるとして、結局、利用者を集めて話し合う機会は、実質的にはなかったかと思えます。

また、障害者を対象とした「東久留米市障害福祉計画策定のためのアンケート調査(以下、アンケート)」については、自立支援法の事業の名前になじめなくて、自分の子どもが利用している事業がなんなのかよくわからないといった意見もありました。アンケートでは利用者負担について意見を聞いているのですが、「今の緊急措置がいつまで続くのか心配」とか「低所得者にとって利用者負担は厳しいので、なくしてほしい」「いまは親が元気でいるのでやっていけるが、一人になったときに利用者負担がある」ととても不安など意見が寄せられていました。

障害福祉計画の策定の過程に携わって感じることは、自立支援法があまりにも実態とかけ離れていて、厚生労働省の指標にとりあえず数字は合わせていこうという感が強く、現状のさまざまな課題を踏まえた計画の策定にはなっていないと思ったことです。そして、計画は自治体の責任で作るとなっていることで、形式的な話し合いやアンケート、パブリックコメントの募集になっってしまったなと思います。もっと時間をかけてもっと多くの障害者に話を聞いて、「わたしたちのことをわたしたち抜きにきめないで!!」と障害者権利条約が国連で成立したようなダイナミックな取り組みが我が市でもできればと願います。

ご寄付を

いただきました。

(4月30日まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。
いただいたご寄付は法人各施設の充実に、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

イトーヨーカ堂

労働組合東久留米支部 様

東京インターナショナルラーニング

コミュニケーション 二森乾 様

絹笠 哲夫 様

三好陸夫 様

崎原ひとみ 様

藤田祐子 様

ありがとうございます。

編集後記

春ですなあ。

寒いから、との理由で中止していた散歩もデジ・カメラ手に再開。
野に咲く「なのはな」や「たんぽぽ」をとったり、雲ひとつ無い「そら」をとったり、今年こそは「うみ」に行きたいなあ。風景だけじゃなくて「なかも」の写真もとらなきゃ。色々な場所に「チャレンジ」して、高崎の「だるま」市にも行きたい。。。。
最後は書いてて苦しくなってきました。ちょっと無理がありますかね？

編集委員会から…

表紙を飾る作品を募集しています。

「ぜひ表紙を飾りたい」という方のご応募をお待ちしています！

《 発行 》

特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会
〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21
Tel 03-3416-1698 Fax 03-3416-3129

《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18
Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

《 編集委員会 》

安達 聡、磯部光孝、金野博志、多田由美、
廣 智章、矢島正樹、吉村裕美



定価 100円

「」の中の名詞、何か分かりましたか？答えは最後にあります。
さて、今号の特集・お仕事紹介はいかがだったでしょうか？
今後、各班にしほってお仕事の紹介を特集したい、と編集会議で話し合っています。
ぜひぜひ、「意見・ご感想をお寄せいただきたいと思います。」
あ、「おひさま」を忘れるところでした。
ぽかぽかと暖かい「おひさま」に春のありがたさを感じている今日このごろです。
答え「」の名詞は、各事業所の班・生活寮の名前です。詳しくは特集を読み返してください。

安達聡